

世界中で高い人気を集めているモトクロスは、2000年に4ストロークエンジンを使用できるようレギュレーションを改定され、2001年よりHondaは環境にやさしい4ストロークエンジン搭載モデルを実戦投入し、各地のレースで優れた戦績を残してきました。

2008年AMAスーパークロス選手権・ライツクラス・イーストではトルコレーシングフェューエルズホンダのトレイ・カナード選手が全7戦中4戦で勝利しチャンピオンを獲得、2009年AMAモトクロス選手権第5戦でホンダレッドブルレーシングのアイバン・テデスコ選手、アンドリュー・ショート選手が2ヒート共、1, 2フィニッシュ。また2008年全日本モトクロス選手権においては、IA1クラスではTEAM HRCの増田一将選手がCRF450Rで、2ヒート優勝の上、年間ランキングで3位を獲得。IA2クラスでは、おなじくTEAM HRCの平田優選手がCRF250Rを駆り、7ヒート優勝し、年間ランキングでも2位を獲得しました。今シーズンの全日本モトクロス選手権においては、IA1クラスでDREAM Honda RT Masudaの増田一将選手がポイントランキング3位、IA2クラスでDREAM Honda RT Hirataの平田優選手がポイントランキング2位につけており、チャンピオンの期待がかかっています。(第7戦終了時点)

これまでHondaは、排出ガスのクリーン化、燃費の向上などを目指し、市販車のFI化を推進してまいりましたが、昨年のCRF450Rに引き続き、CRF250Rにおいても「電子制御燃料噴射装置(以下PGM-FI※)」を搭載するとともに、車体を一新。次世代の競技車としてフルモデルチェンジを行い大幅な戦闘力向上を図りました。またCRF450Rにおいても、エンジンではPGM-FIのプログラムの変更による、出力特性の向上、サスペンション変更による操縦安定性の向上など細部にこだわった変更により、戦闘力の向上を図りました。

このモデルチェンジにより、Honda CRFシリーズが世界のレースシーンにおいてさらなる活躍をし、新たな評価を得られるものと期待しています。

※PGM-FI (Programmed Fuel Injection) はHondaの登録商標です。

●DREAM Honda RT Masuda 増田一将選手/CRF450R



●DREAM Honda RT Hirata 平田優選手/CRF250R

